

春雨に濡る

(大正十二年寮歌)

高橋北雄君 作歌
西田貫道君 作曲

一

春雨に濡るアカシヤ花
街路の灯はなやかに
地は銀鼠にたそがるる
寂かに歩む若人が
心にめざむ爽かの
瀧み充てる力かな

二

夏の入陽に砂丘の
独虎の骨に鷗飛ぶ
融けざる銀の山脈は
碧薄れゆく空にうく
名残の光身にあびて
異郷の方を思ふかな

三

灰青白き白樺や
落葉ふむ音寂しくも
谷また谷を辿り行き
今宵は淡き夢見んと
焚火を囲み歌ふ寮歌
紫紺の闇に解けて行く

四

青き空透き銀の月
石狩の河波光る
雪の野限は靄こめて
灯漂ふアイヌ小屋
琥珀の酒を汲み交し
王者の誇偲ぶかな